

科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号： 34503

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21310172

研究課題名(和文)

日本の宗教とジェンダーの研究—近世社会における尼僧と尼寺の役割—

研究課題名(英文)

Gender in Japanese Religions : Roles of Buddhist Nuns and Convents in Early Modern Society

研究代表者：岡 佳子(OKA YOSHIKO)

大手前大学・総合文化学部・教授

研究者番号：50278769

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の宗教とジェンダーを考えるうえで重要な尼門跡文書の分析を通じて、近世社会における尼僧と尼寺の役割を明らかにすることを目的に、①慈受院門跡所蔵の「総持院触留」の研究、②尼僧を中心とした女性ネットワークの研究 ③比丘尼御所、霊鑑寺門跡の工芸品の調査、以上の3点から研究活動を行った。4ヶ年の期間内に33回の尼寺研究会を開催し、元禄11年～享保21年までの「総持院触留」28冊を講読し、6回の霊鑑寺工芸品調査を実施して人形約170件・染織品約70件・陶磁器約100件の調査データを得ることができた。その成果を纏め、2013年3月に、研究論文6、「総持院触留史料集」を収載した研究報告書を刊行した。本研究によって尼寺を背負う立場にある尼僧たちが積極的に社会に関わっていく姿が明確になった。

研究成果の概要(英文)：This project researches on roles of ama monzeki (imperial convents) and ama dera (convents) in early modern Japan through the analysis of documents housed at ama monzeki, which are important material for the study of Japanese religion and gender histories. For this purpose, this project took three approaches: 1. Survey on “Sōji-in furedome” in the collection of Jiju-in monzeki; 2. Study on the role of nuns within social networks of women; and 3. Survey on arts and crafts in the collections of Reigan-ji monzeki (former bikuni gosho). For the period of four years, members of the project held thirty-three meetings, and read through twenty-eight volumes of “Soji-in furedome”, which are dated from 1698 (Genroku 11) to 1736 (Kyoho 21). In addition, we made six research visits to Reigan-ji monzeki and recorded data of 170 dolls, 70 textiles and 100 ceramic works in the convent collection. *Soji-in furedome shiryōshū*, a report on the research results with six academic essays, was published in March 2013. The project has revealed that, in early modern Japan, nuns, whose main responsibility is to operate convents, also played active roles in secular society.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
総計	4,200,000	1,260,000	5,460,000

研究分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：ジェンダー・仏教・女性・尼寺・比丘尼御所・御所人形・触留・霊鑑寺

1. 研究開始当初の背景

尼門跡寺院は、近世に皇女・王女・公家の子が入寺した比丘尼御所を前身とする尼寺で、京都に 11 ケ寺、奈良に 3 ケ寺が残り、多量の近世・近代文書を所蔵している。ここには、尼僧が自らの手で記載した文書が含まれ、貴重なジェンダー史料群である。1999 年度から 2008 年度までの 10 ケ年間、科学研究費補助金を得て、文書調査を活動の中心に据えた(1)～(3)の研究を実施してきた。

(1) 課題名：「中・近世文書にみる尼門跡寺院の歴史の変遷と生活文化、尼僧の信仰研究」、種目：基盤研究(B)、期間：1999～2002、番号：1141009、分野：日本史、研究代表者：相愛大学教授 西口順子

1998 年度に研究代表者：西口順子は特別研究助成(課題名「尼門跡寺院の調査と研究」)を得て光照院の予備調査を行ったが、その成果をもとに、岡佳子(大手前大学)・牧野宏子(関東学院大学)を研究分担者として、本格的な文書調査を開始し、光照院蔵の近世・近代文書 1 件ごとの調査データを取り、マイクロフィルムによる撮影を行い、絵画・書跡・陶磁器等の美術品調査も終了した。2000 年度から霊鑑寺、2001 年度から中宮寺調査も開始した。

(2) 課題名：「尼寺文書調査を基盤とした日本の女性と仏教の総合研究」、種目：基盤研究(B)、期間：2002～2005、番号：14310165、分野：日本史、研究代表者：大手前大学助教授 岡佳子

本研究では、岡が西口に代わり研究代表者となり、牧野宏子に、岡村喜史(龍谷大学)・牛山佳幸(信州大学)・原田正俊(関西大学)、杉田善雄(大手前大学)、高木博志(京都大学)、切畑健(大手前大学)、松浦典弘(大手前大学)を研究分担者に加えた。中宮寺・霊鑑寺調査を継続、2003 年度より慈受院を調査対象に加えた。霊鑑寺調査ほぼ終了したが、中宮寺と慈受院調査は完了せず課題となった。また 7 回の尼寺文書研究会を開催し、古代から近代までの女性と仏教と女性に関する 13 の報告を

行った。最終的には論考と光照院門跡所蔵 1556 件の文書データを収載した目録を掲載した研究報告書を公刊し、その成果を公開した。

(3) 課題名：「日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究—尼寺調査の成果を基礎として—」、種目：基盤研究(B)、期間：2006～2008、番号：18310171、分野：ジェンダー、研究代表者：大手前大学助教授 岡佳子

前研究の研究分担者に、平雅行(大阪大学)、勝浦令子(東京女子大学)・吉田一彦(名古屋市立大学)・原口志津子(富山県立大学)・佐藤文子(佛教大学)を加え、研究組織を構成した。2008 年度には、西口・杉田・佐藤が連携研究者へ移行、新たに、岸本香織(京都造形芸術大学)が加わった。

本研究では中宮寺・慈受院の文書調査が全て終了した。霊鑑寺の書跡・絵画調査の実施し、5 回の尼寺研究会を開催した。2007 年 11 月には米国ハーバード大学において、ライシャワー日本研究所との共催で、国際シンポジウム“BEYOND BUDDHOLOGUY: NEW DIRECTION IN THE STUDY OF BUDDHISM”を開催、第一目録‘WOMEN AND THE HISTORY OF JAPANESE BUDDHISM’において、研究代表者・研究分担者 11 名と阿部龍一(ハーバード大学教授)他米国研究者 8 名が参加し、活発な討議が行われた。2009 年 3 月には、シンポジウム記録、5 論考を収載した「I 本文編」、「II 霊鑑寺文書目録」(文書データ件数：3370)、「III 中宮寺文書目録」(同：4358)「IV 慈受院文書目録」(同：4318)の 4 冊の報告書を刊行した。

(1)～(3)までの過去 10 年間の研究によって、光照院・霊鑑寺・中宮寺・慈受院の約 12500 件の調査データと写真資料を得ることができたが、これらの膨大な文書を活用して研究の深化を目指すことが、将来の課題として残った。

2. 研究の目的

現在、京都・奈良に残る尼門跡は、皇女・王女・公家の娘が入寺した近世の比丘尼御所を前身とする。一般に、比丘尼御所は高貴な女性が

幼少より入寺し、在俗の頃と同様に御所人形や遊技具を身边におき絵を描き和歌を詠みながら終生暮らす閉鎖的な空間と見られてきた。しかし、尼僧たちがその思想や行動を自らの手で記述した近世・近代文書によって、寺院を背負う立場にある尼僧たちが積極的に社会に関わっていく姿が明確に浮かび上がってきた。比丘尼御所は閉じられた世界などではなく、社会に開かれた場所であった。この事実は日本の宗教とジェンダーを考えるうえで極めて重要な点である。

本研究では、尼門跡文書の分析を通じて、近世社会における尼僧と尼寺の役割を明らかにすることを目的とし、①慈受院門跡所蔵の「総持院触留」の研究②尼僧を中心とした女性ネットワークの研究③比丘尼御所、霊鑑寺門跡の工芸品の調査の研究活動を行った。

3. 研究の方法

(1)研究の役割と研究テーマの設定

本研究の参加者は、下記の通り、研究における役割を定めるとともに、日本の宗教とジェンダーに関する個々のテーマを設定した。

研究代表者：岡佳子(研究の統括・霊鑑寺工芸品調査担当、工芸品と尼門跡文書にみる尼僧を中心とした女性ネットワークの研究)、研究分担者：岡村喜史(「総持院触留」研究会担当、近世比丘尼御所の公儀支配の実態研究)・岸本香織(「総持院触留」講読副担当、中・近世における公家方の女性と尼僧の関係研究)、連携研究者：西口順子(研究会の参加・尼僧を中心とした女性ネットワークの研究指導)・杉田善雄(「総持院触留」の講読指導、近世の門跡と比丘尼御所の比較研究)・牧野宏子(研究会の参加、国文学と民俗資料にみる近世の尼僧を中心とした女性ネットワークの研究)・佐藤文子(霊鑑寺門跡工芸品調査副担当、古代・中世における尼僧を中心とした女性ネットワークの研究)・原口志津子(霊鑑寺工芸品調査副担当、尼寺の美術品にみるジェンダー研究)・水谷友紀(研究会の講読補助、近世の中宮寺と在地の研究)・青谷美羽(研究会の講読補助、近代の尼門跡寺院研究)である。さらに切畑健(霊鑑寺門跡工芸品調査の指導・助言)、高橋大樹(研究会の講読補助)が研究協力者として参加した。

(2)尼寺文書研究会の開催と史料講読

本研究では月1回の割合で、尼寺文書研究会を開催し公儀から比丘尼御所に下した触を書き留めた慈受院蔵「総持院触留」を対象に、研究組織全員が分担箇所を決め、それらを講読したうえで、翻刻作業を行った。

2009年度は第13回～19回迄の全7回を開催し、元禄11年～正徳6年迄の「総持院触留」10冊を講読した。2010年度は第20～27回迄の全8回を開催し、「総持院触留」享保2年～13年迄の10冊を講読した。本年度から研究発表を加えた。その詳細は、小椋百合子「西大寺流」尼寺の活動(第25回)、西口順子「仏教は女性を差別しなかったかー工藤美和子氏「平安期における女性と仏教について」を読んでー」(第26回)、高橋大樹「室町・戦国期王家葬礼仏事を考える一般舟三昧院の成立・展開と西山派寺院一」(第27回)である。

2011年度は、第28～37回迄の全10回を開催、享保14年～21年迄の全8冊を講読した。研究発表は、岸本香織「慈受院蔵「触留帳」に見られる嘉永大火に関する触について」(第29回)、岡佳子「前近代における「美術」概念の変遷」1・2(第32・33回)、岡村喜史「親鸞・恵信尼とその家族ー本願寺の系図を通してー」(第35回)、水谷友紀「薬師寺郷の近世」(第36回)、青谷美羽「門跡・比丘尼御所の歴代墓地にみる陵墓管理の一断面」(第37回)であった。

2012年度は、第38～46回の全9回を開催したが、最終年度であるため、主に3年間の整理を行った。前年度まで28冊を講読したが、うち享保13年までの20冊を研究報告書に史料集として掲載することとし、研究参加者全員で翻刻文の再度の読み合わせを行い、史料校訂と原稿作成を行った。

本研究会には、研究組織のみならず、関西・関東の大学の学生・院生が参加し、講読と翻刻を行った。

(3)霊鑑寺門跡の工芸品調査

本研究では、京都の院霊鑑寺門跡蔵の工芸品調査を6回実施した。2009年度は夏期2日、冬期3日で実施し、江戸中期～明治に至る御所人形・賀茂人形等を調査した。2010年度は、夏

期3日、冬期に3日の2回の調査で、江戸中期～大正期に至る打敷・法衣等の染織品を調査したが、切畑健(大手前大学・元教授)が研究協力者として調査指導を行い、研究組織全員がそれに参加した。2011年度は、冬期に3日で実施し、霊鑑寺の蔵整理を兼ねて所蔵品を悉皆調査した。2012年度は、冬期に3日の1回で、研究代表者：岡佳子が江戸時代前期～明治期までの茶道具・食器などの陶磁器調査を担当した。

調査対象品に関しては作品名・法量・年代・保存状態等の基礎データを採取し、1件ごとに細部に至るまでの撮影を行った。

(4)研究報告書の作成

2012年度後半には、尼寺文書研究会における慈受院蔵「総持院触留」の講読と翻刻、霊鑑寺工芸品調査、および各研究者の研究を纏める作業を行い研究報告書の作成を行った。

4. 研究成果

本研究の特色は、課題名の副題に「近世社会における尼僧と尼寺の役割」とあるように、近世という時期に特化したことである。日本の女性と仏教研究では、近世の研究はさほど進んでいないが、過去10年の尼門跡寺院の近世・近代文書調査の成果を基盤とした本研究では近世研究が大きく進展した。

その成果は、研究論文6本と「総持院触留史料集」を掲載した、研究報告書「日本の宗教とジェンダーの研究—近世社会における尼僧と尼寺の役割—」(全211頁、岡佳子編・発行、2013年3月20日)として公開した。

本研究では、歴大な尼門跡所蔵の文書群のなかから、慈受院蔵「総持院触留」を選択し、33回の尼寺研究会を開催して講読と翻刻を行った。総数160冊に及ぶ「総持院触留」のうち僅か20冊にすぎないものの研究報告書に史料集を掲載し、学界に新資料を提供することができた。報告書において岸本香織が解題「慈受院蔵「総持院触留」—元禄十一年から享保十三年の翻刻—」を執筆し、『京都町触集成』『妙法院日次記』収載の公儀触と対照させて考察を行ったが、このような比較研究が実現したことは、史料集公刊に依るところが大きい。

霊鑑寺門跡工芸品調査によって尼僧の身边で

使用された人形約170件・染織品約70件・陶磁器約100件の調査データを得た意義も大きい。報告書には切畑健が「霊鑑寺門跡の人形・染織」を執筆し、霊鑑寺に入室した皇女たちの実像を工芸品によって明確にし、さらに江戸時代後期の人形・染織の作品編年をも試みた。その成果が学界に寄与する所は大きい。報告書に岡佳子が「霊鑑寺門跡の陶磁器」を執筆し、近世の禁裏御用品の肥前・京都の陶磁器の実態を明確にした。原口志津子が2008年度の書画約100件の調査成果をもとに「霊鑑寺門跡所蔵の書画」を執筆、霊鑑寺宮の書画製作活動、女性住持の頂相を取りあげ、絵画にみるジェンダーの問題を論じた。一門跡が所蔵する美術・工芸資料の内容が一括して提示されたことはこれまでなく、美術史の成果としての意義も大きい。また、上記の論考では、これらの美術・工芸品が霊鑑寺に在俗女性から寄進された事実を明確にしたが、これは女性ネットワーク研究の成果である。

今回は霊鑑寺ともに中宮寺研究も進展した。中宮寺調査の成果をもとに、岡村喜史が「近世末期の中宮寺と地域社会」を報告書に執筆し、中宮寺歴代住職の法会の廻状から群小尼寺を含めた在地の広大な信仰圏を明確にし、中宮寺の駆込寺的な性格も論じた。さらに水谷友紀は「戒師の選択過程にみる近代中宮寺の動向—明治二十三年を中心に—」を執筆、中宮寺住持の戒師選定に関して法隆寺や西大寺の男僧の活動を明らかにした。これらから近世の在地社会と中宮寺の関係が明確となった。

上記の諸研究によって、近世社会における尼僧を尼寺の役割の一端を明らかにでき、ジェンダー研究にも成果があったといえる。しかし、残された課題も多い。「総持院触留」では幕末まで140点余の翻刻が残る。女性ネットワーク研究も十分な成果をあげたとは言い難い。これらが将来の課題となるだろう。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計16件)

1.原口 志津子「本法寺蔵「法華経曼荼羅」における阿難と羅睺羅の図像—舍利信仰と出家者—」(単著、『富山県立大学紀要』第23巻、査読無、2013

2. 牧野 宏子 「浅草福富町名主と文人たち—永野又次郎宛書簡より—」(单著)、『江戸東京博物館調査報告書第 25 集』、87~97 頁、査読無、江戸東京博物館、2012
3. 原口 志津子 「富山県内所蔵 京都御所の絵師たち」(单著)、『富山県立大学紀要』第 22 卷、39~44 頁、査読無、2012
4. 水谷 友紀 「近世社会の秩序編成と寺社—薬師寺郷の近世—」(单著)、『ヒストリア』第 229 号、114~169 頁、査読有、2011
5. 西口 順子 「中・近世近江に絵系図について」(单著)『仏光寺の歴史と文化』、編集委員会編『仏光寺の歴史と文化』263~284 頁、査読無、法蔵館、2011
6. 岡 佳子 「和物茶碗と近代の茶の湯」(单著)『美術フォーラム 21』第 26 号、94~100 頁、査読有、2011
7. 岡 佳子 「京焼の印銘」(单著)、江戸遺跡研究会編『江戸時代の名産品と商標』81~103 頁、査読無、吉川弘文館、2011
8. 水谷 友紀 「絵図資料にみる地域認識—近世奈良のなかの『南都』と『奈良』—」(单著)、『八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—』、京都府立大学文化遺産叢書第 4 集、42~58 頁、査読無、2011
9. 岡 佳子 「北摂・丹波の磁器生産-欽古堂亀祐を中心に」(单著)『東洋陶磁』第 40 号 24~44 頁、査読有、2011
10. 青谷 美羽 「「京都府管内御陵墓明鑑」と京都府の陵墓掌丁について」(单著)、向日市文化資料館他編『物集女村陵墓関係史料集 続』67~72 頁、査読無、2011
11. 原口 志津子 「三十三の法数をめぐって—射水市指定史跡「三十三塚」と氷見市「上日寺伽藍絵図—」(单著)、『富山県立大学紀要』第 21 号、査読無、75~90 頁、2011
12. 岸本 香織 「慈受院蔵「触留帳」に見られる嘉永の大火に関する触について」(单著)、『嘉永七年京都大火・安政度内裏造営関係資料』216~225 頁、査読無、立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点事務局、2011
13. 西口 順子 「転女成仏経」攷」(单著)、日本仏教総合研究会『日本仏教総合研究』第 8 号、2~8 頁、査読無、2010
14. 佐藤 文子 「古代の得度に関する基本概念の再検討—官度・私度・自度を中心に—」(单著)日本仏教総合研究会『日本仏教総合研究』第 8 号、91~107 頁、査読有、2010
15. 岸本香織 「冷泉家の宸翰」(单著)、『しくてい』第 111 号、2~5 頁、査読無、(公財)冷泉家時雨亭文庫、2010
16. 岡 佳子 「京焼研究と考古学」(单著)、『美術フォーラム 21』第 19 号 109~114 頁、査読有、2009
[学会発表] (計 10 件)
1. 岡 佳子 「和物茶碗と近代の茶の湯」シンポジウム『美術フォーラム 21 茶の湯・スキの芸術』、於京都国立近代美術館 2012 年 12 月 23 日
2. 岡 佳子 'Kyoyaki - Ninsei, Kenzan and Kokiyomizu' Historical Kyoto roundtable seminar, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, 2012 年 3 月 2 日
3. 牧野 宏子 「浅草福富町名主と文人たち—永野又次郎宛書簡より—」、平成 22 年度東京都江戸東京博物館都市歴史研究室シンポジウム、於江戸東京博物館、『江戸の町名主』2012 年 2 月 19 日
4. 岡佳子 'Who owned Chigusa?', Webcasts & Webinars, Workshops "The Story of Chigusa: A Tea Jar's 700-year History", The Freer and Sackler Galleries, 2011 年 11 月 3 日
5. 水谷 友紀 「近世社会の秩序編成と寺社—薬師寺郷の近世—」、大阪歴史学会大会報告、於神戸大学、2011 年 6 月 26 日
6. 原口 志津子 'Ritual and Large Format Paintings of the Lotus Sūtra : A Case Study of the Honpō-ji Version of the Lotus Sūtra Mandala' International Symposium "Beliefs, Rituals, Stories and Art in Medieval Japan II", Harvard Sackler Art Museum, 2011 年 3 月 11 日
7. 牧野 宏子 「杉田の海鼠—天保五年刊森村抱儀著『金澤紀遊』より—」食生活史懇話会例会、於青山学院大学、2011 年 2 月 1 日

- 8.岡 佳子「江戸後期の北摂・丹波の磁器生産」、東洋陶磁学会第 37 回大会「丹波焼」、於兵庫陶芸美術館、2009 年 11 月 23 日
- 9.岡 佳子「膳所焼の変遷—文献史料をもとにして—」、東洋陶磁学会・歴史土器研究会主催「シンポジウム膳所焼大江窯の総合的研究」、於京都テルサ、2009 年 7 月 11 日
- 10.岡佳子「金森宗和と尾張徳川家」、茶の湯文化学会東海例会、於於名古屋文化短期大学、2009 年 4 月 24 日
〔図書〕(計 12 件)
1. 岡 佳子『甲賀市史』(共著)54~125 頁、甲賀市、2013
2. 杣田 善雄『日本近世の歴史 2 将軍権力の確立』(単著)、全 304 頁、吉川弘文館、2012
3. 岡佳子『近世京焼の研究』(単著)、全 43 頁 思文閣出版、2011
4. 杣田 善雄「西笑承兌の居所と行動」(単著)、『織豊期主要人物居所集成』、404~415 頁、思文閣出版、2011
5. 杣田 善雄「近世の寺社造営 —公儀普請と勸化」(単著)、『新体系日本史 15 宗教社会史』、203 ~223 頁、山川出版社、2011
6. 杣田 善雄「門跡の身分 —宗門の頂上」(単著)『江戸のひとと身分 3 権威と上昇願望』157 ~186 頁、吉川弘文館、2010
7. 原口 志津子『中世絵画と信仰世界』佐野みどり編、(共著)143~158 頁、青簡舎、2010
8. 杣田 善雄『史料纂集 妙法院日次記』第 23 卷、(共編著)、全 350 頁、八木書店、2010
9. 岡村 喜史『新修小松市史 史料篇 9 寺社』(共著) 62~66、68~70、116~215 頁、石川県小松市、2010
10. 岡村 喜史『大東市史編纂史料目録第 4 集 東家文書』(単著)、全 54 頁、大東市教育委員会、2010
11. 杣田 善雄「西笑承兌の居所と行動」(単著)、『稿本・織豊期主要人物の居所と行動』369 ~378 頁、京都大学文学部、2009
12. 岸本 香織『冷泉家 王朝の和歌守展』図録(共著)、178~192 頁、朝日新聞出版、2009

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡 佳子(OKA YOSHIKO)
大手前大学総合文化学部・教授
研究者番号：50278769

(2)研究分担者

岡村 喜史(OKAMURA YOSHIJI)
龍谷大学・文学部・准教授
研究者番号：50340493

(H22→H24：研究協力者)

岸本 香織(KISHIMOTO KAORI)、
京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師
研究者番号：40440903

(H21→H22：連携研究者)

(3)連携研究者

西口 順子(NISHIGUCHI JUNKO)
相愛大学・名誉教授
研究者番号：80237685

杣田 善雄(SOMADA YOSHIO)
大手前大学・総合文化部・教授
研究者番号：20368442

牧野 宏子(MAKINO HIROKO)
関東学院大学・人間環境学部・准教授
研究者番号：50219309

原口 志津子(HARAGUCHI SHIZUKO)
富山県立大学・工学部・教授
研究者番号：40208666

(H21：研究協力者)

佐藤 文子(SATO FUMIKO)
仏教大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：80411122

水谷 友紀(MIZUTANI YUKI)
元興寺文化財研究所・研究部・研究員
研究者番号 7058715

(H21、H24：研究協力者)

青谷 美羽 (AOTANI MIU)
京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師
研究者番号：10578719

(H21：研究協力者)

研究協力者

切畑 健(KIRIHARA KEN)
大手前大学・元教授

高橋 大樹(TAKAHASHI DAIKI)
大津市歴史博物館・学芸員